

2021年8月6日
千葉県経済同友会

「千葉のイノベーション促進」に向けた勉強会について ——「千葉イノベーションスクエア」構想(仮称)——

1. はじめに

千葉県経済同友会では、2020年7月の「千葉県の30年後の将来像～自然災害・コロナ禍を踏まえた追加提言～」の公表後、特に早期の実現を目指す必要があると考えられる2つの論点について、同年11月から会員による勉強会を実施してきている。

このうち「災害時の情報共有・広報・連携について」は、6度の勉強会を重ねた後、このほど最終とりまとめとして追加提言を公表した。もう1つの勉強会は、「千葉のイノベーション促進」に向けたものであるが、災害関連の勉強会が終了したため、今後本格的に進めていくこととする。

以下では、問題意識を改めて整理した後、勉強会の方向性について示す。

2. 問題意識

昨年の追加提言では、千葉県の経済発展にとって、「次世代を見据えた産業のイノベーション」が重要であることを示した。その後、長引く新型コロナウイルス感染症拡大を経験し、ポストコロナの経済発展を目指していく上で、デジタル化やグリーン化¹といった分野を含め、イノベーションが国にとっても千葉県にとっても重要であることが益々明らかになってきている。

コロナ禍は、産業によって異なる影響を及ぼしている。対面型サービスが打撃を受ける一方、デジタル化やグリーン化といった従来からの国際的な潮流がコロナ禍で一気に加速しているのが特徴である。千葉県経済は、コロナ禍でも、東京都などからの人口流入の影響もあって、全国対比で見劣りする訳ではない。しかし、例え

¹ 環境省は、環境配慮経営ポータルサイトで、経済のグリーン化について、「経済活動により自然資源や生態系などの地球環境が回復不能なほど損なわれることがないようにすること」としており、脱炭素に限らず幅広い観点から環境に配慮しながら、「経済成長と環境保全の両立をはかるものであり、持続可能な社会を実現するために、不可欠な基盤」と指摘している。

ば、需要が急増するデジタル関連が少ないことが今一つ弾みのつきにくい要因となっている(図表1)。また、グリーン化についても、自治体のゼロカーボンシティ宣言が全国平均に比べやや遅れているなど、盛り上がりには欠けているようにも感じられる。こうしたことを踏まえると、千葉県経済の更なる発展のためには、イノベーション促進が重要であることが、さらに強く認識される状況にある。

千葉県経済同友会としては、以上のように県経済を取り巻く環境変化が急速なもとでは、イノベーション促進に関する経済界の考え方を適切に発信・提言することによって、新県政の産業育成に貢献していくことが重要と考えている。

昨年の追加提言では、分野横断的なイノベーション促進について、暫定的に「日本版シリコンバレー構想」と呼んだが、その後の情勢を踏まえながら、同構想をさらに進化・発展させることが適当である。

千葉県におけるイノベーションの促進は、千葉県の経済発展にとって重要であるとともに、結果として、東京都一極集中の是正、ひいてはバランスのとれた首都圏全体の発展にも資することが期待される。その際、千葉県の魅力(ブランド力)を高め、人や企業をもっと呼び込めるようなイメージ創りも意識する必要がある。

3. イノベーション促進の基本的な考え方

イノベーションを促進していく上で大事なものは、産業・地域の双方の視点で検討することである。これは、産業間や地域間の有機的な繋がりが、千葉県全体の発展に資することが期待できるためである。地域間の繋がりのためには、交通インフラの一層の充実も必要となる。

千葉県は、1983年に「千葉新産業三角構想」を掲げ、内陸部への先端技術産業の導入推進による工業構造の高度化と均衡のとれた地域構造の実現を目指してきた。具体的には、「学術・教育」、「研究開発」、「国際的物流」の3機能に着目し、これらを湾岸(幕張新都心構想)、かずさ(上総新研究開発都市構想)、成田(成田国際空港都市構想)の3つの核となるエリアを中心に整備。一定の効果を上げてきたものと評価できる。

その後、柏市を中心とした東葛エリアが、幅広い分野におけるインキュベーションハブなどとして、発展してきている。このため、上記3エリアに東葛エリアを加えることで、「新三角構想」を拡大・発展させることが適当と考えられる。

イノベーション促進の対象となる産業や分野については、限定する必要はないが、主に千葉県の強み・特徴を活かせるものをターゲットとした方が、これまでの蓄積を活かしつつ、千葉県全体の発展にも結び付きやすいと考えられる。地域との関連も意識して例示すると、以下のようなものが想定される。

- ① 湾岸エリアでの水素事業を始めとしたグリーン化を目指すイノベーション
- ② かずさ、東葛、成田エリア等で土台ができつつあるヘルスケア産業
- ③ 全国有数の農林水産業、被災経験から重要性が高まる防災等に活用できるデジタル化・スマート化
- ④ 千葉市を中心に芽が育ちつつあるロボットやドローン
- ⑤ 成田空港や千葉港を活かした国際的物流

ヘルスケア産業などにみられるとおり、地域を跨いで芽が出始めている分野もあり、それらが更に発展するとともに、周辺地域を巻き込みながら地域間の結び付きが強まれば、県全体の一層の発展にも繋がるのが期待できる。

以上のように産業・地域の拡がりが見込まれることを踏まえると、それがイメージしやすい呼称としては、「日本版シリコンバレー構想」以上に「千葉イノベーションスクエア構想」がより適当と考えられる(図表2)。このスクエアは、4つのエリアと広場の双方を意味しており、「新三角構想」を拡大・発展させることも意識したものである。

同時に、「『グリーン県ちば』を目指す」といった方針を示すことも、イノベーションを促進していく上で、そして人や企業を呼び込む上で有効と考えられる。ここでイメージしているのは、想定されるイノベーション分野のうち、脱炭素を始めとした環境保全、ヘルスケア、農林水産業などである。千葉県は自然豊かであるため、グリーン関連のイノベーションと併せ、「グリーン県ちば」は人や企業にとって訴求力の高い名称ではないかと考えられる。

両者を纏めて大胆に言うと、「イノベーション拠点『三角』から『スクエア』へ、目指せ『グリーン県ちば』」ということになる。いずれにせよ、今後の勉強会により千葉のイノベーションに対する理解を深める中で、どのような呼称や打ち出し方が適当か、改めて検討していきたい。

4. 今後の勉強会の進め方

勉強会は、対象エリアあるいは分野毎に、専門家あるいは会員が講師を務める形で、月 1～2 回程度実施していく予定。本勉強会プロジェクトは 1 年程度とし、来年夏に最終報告書を公表することを目指す。

以上

(図表1) 千葉県の産業構造の特徴
(産業別県内総生産の構成比・18年度)

(%)

	千葉県	全国
農林水産業	1.1	1.1
製造業	19.1	22.0
食料品	3.6	2.9
化学・石油・石炭製品	6.5	3.1
一次金属	2.6	1.2
電子部品・デバイス、電気機械、情報・通信機器	1.0	3.1
輸送用機械	0.2	3.8
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	6.4	3.0
建設業・不動産業	20.6	17.0
卸売・小売業	8.3	12.5
運輸・郵便業	7.3	5.2
宿泊・飲食サービス業	2.5	2.5
情報通信業	2.9	4.7
専門・科学技術、業務支援サービス業	6.2	7.6
保健衛生・社会事業	8.4	7.5

(注) 1. 出所: 内閣府「県民経済計算」をもとに(株)ちばぎん総合研究所が作成。

2. 赤い網掛けは千葉県の構成比が全国以上、青い網掛けは全国以下の産業。

(図表2)「千葉イノベーションスクエア構想」のイメージ図



(出所) (株)ちばぎん総合研究所が作成。